《東京新聞》で川柳 250 年　開かれた川柳への道

東京新聞　2007年(平成19年)6月1日(金曜日)　東京

「川柳」誕生から250年

コンコースで作品展
乗降客らも「クスッ」

上野御徒町駅

リズミカルでウイットに富んだ庶民文芸「川柳」が誕生して、ことしで二百五十年。これを記念して、川柳の祖とされる初代柄井川柳（一七一八―一七九〇）の出身地である台東区内で八月、記念碑建立や講演会、句会などが行われる。川柳250年実行委員会（会長・吉住弘台東区長）が主催、東京新聞など後援。プレイベント「大江戸せん柳展」が五日まで、都営大江戸線上野御徒町駅コンコースで開かれている。（丹治早智子）

「バーゲンに子ども忘れた主婦の群れ」「ダイエット仲間で入るバイキング」。乗降客が行き交うコンコース。足を止めた人がクスッと笑う作品は、柄井川柳の地元である新堀・阿部川町川柳会句会の作品約八十点。これらを紹介している同展は、同実行委と台東川柳人連盟（大川幸太郎会長）が共催する。

現在受け継がれている「川柳」という文芸名は明治以降に定着した。その元が、柄井八右衛門の俳名「川柳」とされる。浅草新堀端（現台東区蔵前四）の天台宗龍宝寺門前の名主だった八右衛門は一七五七（宝暦七）年、四十歳の時、前句付けという付け合い文芸の宗匠になり、号を「川柳」と名乗った。同年八月二十五日、「万句合」と呼ばれる句会を初めて開き、最初の作品が生まれた。

記念碑は「川柳発祥の地」として同区三筋二丁目の交差点付近に建立され、「川柳発祥の日」の八月二十五日に除幕式が行われる。

また、今月二十五日まで川柳コンテスト「平成万句合」の作品を募集している。課題は「太陽」。優秀作を「川柳250年の記録」に掲載、出版する。

川柳家で実行委事務局の尾藤一泉さんは「発祥二百五十年の節目に当たる今年を『川柳の年』として、文芸の祖・柄井川柳に感謝し、川柳を引き継いできた人々に思いをはせ、歴史や伝統文芸としての魅力を発信していきたい」と話している。

問い合わせは実行委＝☎（3913）0075＝へ。

発祥の台東　8月にもさまざま催し

「元祖川柳肖像」（川崎誠一氏蔵）＝川柳250年実行委員会提供

東京 12 チャンネル〈誰でもピカソ〉で川柳特番

6 月 8 日放送分から 4 回にわたりたけしの〈誰でもピカソ〉で川柳が取り上げられ、尾藤三柳氏（写真上）がサラ川についてコメント、十五世川柳氏、やすみりえさんなどが古川柳や川柳の発祥について語った（写真中）。また、第 3 回目には、大学の杉山昌善氏も時実新子新子を中心に現代川柳の楽しさを訴えるという。5 月 28、30 日に収録ロケがあり、初代川柳の眠る天台宗・龍宝寺の川柳会館などで番組制作が行われた。5 月 29 日には、のりゆきのトーク DE 北海道「川柳誕生 250 年　川柳ブーム奥様川柳選主権」に斎藤大雄氏、八木柳雀氏出演（写真下）。川柳 250 年の旗が放映されるなどメディアも川柳に関する関心が高まっている。

＜問合せ・ご意見＞
川柳 250 年実行委員会事務局
〒114 - 0005 東京都北区栄町 38－2
e-mail : senryu250@estyle.ne.jp
電話：０３－３９１３－００７５
Fax. ：０３－３９１３－１５１２
URL ; http://www.senryu-gakkai.com/senryu_250/index.html